

国立病院機構熊本医療センター

2017 No.235



発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

# くまびょうNEWS

## 新年の御挨拶



国立病院機構  
熊本医療センター  
院長 河野 文夫

↑増築予定「外来棟」完成イメージ

熊本医療センター病院増改修整備  
完成予定鳥瞰図（ちょうかんず）

新年明けましておめでとうございます。

昨年4月は未曾有の熊本地震が起こり、皆様のご施設やご自宅も被災された方も多いと思います。心よりお見舞い申し上げます。

当院は、2008年9月に耐震構造の全面建て替えを終えておりましたことと、震源地との距離が比較的遠かったことで、建物そのものの損傷は軽微でした。ライフラインも都市ガス以外はすぐに復旧し、職員一丸となって震災後の救急医療に全力で取り組むことができました。震災後は、病床が稼働していない施設の影響から、当院への救急車搬入が増加しており、病床の確保も例年より苦勞しています。

人事では、熊本市市民病院から、研修医など医師10名を含む14人の職員を受け入れておりますが、それぞれの職場で熱心に働いていただいております。さらに、熊本地震以後、救急外来の医師を強化し、午後10時までは9人体制としています。また去年は、念願でありました総合診療科が辻 隆宏医長の赴任により充実致しました。

他では待望のシャトルバスの病院構内への乗り入れがはじまりました。さらに、以前より予定しておりました、新外来棟を含む増改築工事が本年1月早々に始まります。最終的に、本院の外来、事務、救急外来などの改修が完成しますのは平成31年8月で、約3年を要する予定です。この間患者様、地域の皆様には大変ご不便をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

最後に、当院の方針は、今までと変わることなく、急性期医療に全力を挙げまして、365日、24時間どんな患者さんでも救急医療を断らないをモットーとし、地域医療連携の一翼を担い、地域の皆様方のお役に立ちたいと思っております。

本年が、先生方にとりまして実り多い1年となりますことをご祈念申し上げますとともに、本年度もどうぞよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年1月1日

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「Running is fun!  
Life so happy!」



## 幡手耳鼻咽喉科クリニック

院長 幡手 厳論

熊本医療センターの皆様には平素より大変お世話になっております。2017年トップバッターになってしまいました(笑) 恐縮ですが私の趣味の話を書かせていただきます。

初めてフルマラソンの大会に出場したのは10年前。小学生から大学まではバスケットボールにのめり込み、この10年間は「走る」ことに夢中になっている。ランニングは「シューズ」と「道」があればいい。時間を選ばず、一人ででき、シンプルで意志さえあればできるところが性に合っているのだろう。

朝の4:30に起床し素早く身支度をして、ランニングシューズを履く。走るコースはいくつかあるが、その日の体調や気分によって決める。ランニングの距離は30キロ程度。金峰山や花岡山を走ることも多い。

人の気配がない山の中を走るのは気持ちがいい。

酸素をたっぷり含んだ新鮮な空気、不気味な動物や鳥の鳴き声、耳元を駆ける風の音、自分の呼吸音と大地を踏むしめる音。喧騒を抜け出し、余計な感情もしがらみも何もない自然の懐を走らせてもらっている。

四季をストレートに感じることができるのもいい。この季節の日の出は7時くらいでまだ暗闇の中を走るのだが、頭上には星々が煌めき、眼下には夜景を眺めることができる。だが本当に美しいのは、夜が朝を産み落とす瞬間だ。スーッと闇が引き、暖かな光が差し込んでくる。様々なことがこの瞬間にリセットされ、生きていることを実感し、今日1日をまた頑張ろうというエネルギーが湧いてくるのだ。

今年は熊本に住む我々にとっては忘れることができない年になった。私も地震で自宅に住めなくなり、ひと月ほど家族でクリニックに暮らすこととなった。風雨をしのぐことができ、足を伸ばし眠れる場所があることの幸せ、家族みんなの顔がそろい笑いあえることの幸せ、そして毎日走ることができる幸せが自分の中で常態化して、感謝する気持ちが希薄になっていたことを振り返るには大切な時間となった。地球の強大なエネルギーによって甚大な被害を受けたが、私たちの生きるエネルギーは尊大であり不屈であることを信じて進もう。

「日常」が戻らない被災者の方はまだまだたくさんいることと思います。震災の傷が早く癒えることを、皆さんが幸せな日常を取り戻せることを切に願っております。そして亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

2017年、皆様が暖かな春風に包まれ、穏やかに過ごせますことを祈って！

平成28年 師走

## 平成28年度 第2回開放型病院運営協議会が開催されました

### 第2回開放型病院連絡会は2月25日(土)に決定しました!

12月1日(木)、当院会議室にて今年度第2回目の開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員の熊本市医師会会長の福島敬祐先生(当協議会委員長)にご出席いただきました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に続き議事に入りました。議事は事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて開放型病院連絡会の開催について協議が行われました。その結果、平成28年度第2回開放型病院連絡会を、平成29年2月25日(土)午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催することを決定しました。第2回開放型病院連絡会は、総会と特別講演の2部構成となっています。総会では、症例提示、地域医療連携室及び紹介予約センターからのお知らせを予定しています。総会終了後、引き続き特別講演を行います。特別講演は、「最近の医療行政」をテーマに、厚生労働省大臣官房審議官 椎葉茂樹先生にご講演を頂きます。

この連絡会を機に地域の医療機関の皆さまと益々の

#### 第42回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成29年2月25日(土) 午後6時30分

場所：地域医療研修センターホール(当院2F)

— 内容 —

- 1 症例提示
- 2 地域医療連携室・紹介予約センターからのお知らせ
- 3 特別講演「最近の医療行政」(仮題)  
厚生労働省大臣官房審議官 椎葉茂樹 先生

#### 【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線2311(清水・今村)

連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、メディカルスタッフ、看護師、MSW、事務職他多くの皆さまのご参加を賜りますようお願い申し上げます。  
(管理課長 清水就人)

## 平成28年度 第2回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成28年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月12日（月）午後7時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、田中弥興副会長、渡辺猛士副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より河野院長、片渕副院長、清川統括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

河野院長、宮本会長からの挨拶の後、議事に入りました。まず中島部長から当院の歯科紹介率と紹介人数の実績について、次いで、原田医長から当院の歯科救急医療について、中島部長より歯科関係の今年度と来年度に行われる講演会・セミナーの紹介が報告されました。

最後に片渕副院長から、平成28年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院絡会が2月25日（土）午後6時30分から、当院地域医療研修センターにて開



連絡協議会の様子

催されることが案内されました。その他、当院の新外来棟、入院支援室の話題等があり、当病院と熊本市歯科医師会とのさらなる連携を確認して閉会となりました。  
（歯科口腔外科部長 中島 健）

## 平成28年度 地域医療支援病院運営委員会が開催されました

平成28年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成28年12月8日（木）16時より当センター会議室にて開催されました。協議会には委員長の熊本市医師会会長 福島敬祐先生をはじめ、熊本市歯科医師会会長 宮本格尚先生、熊本市薬剤師会会長 村瀬元治先生、熊本県健康福祉部健康局長 立川 優様、熊本市保健所所長 長野俊郎様、熊本大学附属病院地域医療支援センター長 松井邦彦先生の方々にご出席をいただきました。

河野院長、福島委員長のご挨拶の後、事務局より①紹介率・逆紹介率の実績、②共同指導の実績、③救急



福島敬祐先生のご挨拶

医療の提供実績、④地域の医療従事者の資質向上を図るための研修実績などについて報告がありました。

今年は、熊本地震の影響もあり、紹介率、逆紹介率、救急車搬送件数等昨年度より増加傾向で推移しております。また災害後も紹介患者数は増加しています。これも一重に開放型病院登録医の先生方をはじめ、当院を信頼して患者様をご紹介して下さる先生方のおかげと深く感謝申し上げます。今後ともご指導の程、よろしく申し上げます。  
（経営企画室長 石井竜男）



地域医療支援病院運営委員会の様子

## 蟻田功名誉院長・天然痘根絶 35 周年記念講演会



平成28年12月14日木曜14時より、くまもと県民交流会館パレオ10Fホールにて、天然痘根絶35周年記念講演会が開催されました。まず発起人代表の福田稠熊本県医師会会長の挨拶、蒲島郁夫熊本県知事の祝辞、高田晋熊本市副市長の祝辞の後、座長の河野院長が蟻田功先生のご略歴及びご業績について紹介しました。その後、NHKで2002年4月に放送されました「プロジェクトX 挑戦者達“決戦 人類最大の敵 日本人リーダー 天然痘と闘う”」のビデオが放映され、続いて蟻田功先生から“ヒューマニズムと平和～天然痘の根絶を通して～”の記念講演がなされました。先生は、1926年5月熊本生まれの満90才。熊本医科大学卒業後、厚生省勤務を経て、世界保健機構（WHO）にて、天然痘根絶プロジェクトリーダーとして、プロジェクトを主導。結果、1980年にWHOによる天然痘根絶宣言をされました。この天然痘根絶の偉業は、医学の歴史はもとより、人類の文化史上特筆されるべきものであり、 Jenner の種痘に始まる天然痘と人類の闘いについて終止符を打ち、予防医学の重要性と有効性を明示した歴史的な偉業であると今なお世界中で賞賛されています。現在、国立病院機構熊本医療センター名誉院長、熊本大学名誉フェロー。講演後、出席した高校生や、看護学生からの質問にも親しくお答えいただきました。その後、二塚信熊本大学名誉教授から「超高齢社会を生きる」の特別講演がありました。高齢化社会での様々な問題点と、その中でどの様に生きればいいのかわかりやすく広範囲にお話しいただき、とてもためになったと参加者に喜ばれました。会場は立ち見席が出るほど満員で、特に高校生、看護学生など将来の日本の医療をになう若い人が沢山出席し、とても参考になったのではと思います。

(院長 河野文夫)



## 「病院増改修整備工事」の安全祈願祭を行いました

平成28年12月5日（月）大安の日、「病院増改修整備工事」の安全祈願祭を執り行いました。院長他幹部職員及び地域代表の皆様を迎え、式は滞りなく終了することができました。いよいよこれから本格的に工事が始まります。工事は、大きく4つのステップで行われます。今後のスケジュールは下記のとおりです。まず、準備工事として、12月中旬より、駐車場の一部に資材置き場、現場事務所・仮囲い等を設置することから始まります。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

(業務班長 朝重久緒)



安全祈願祭の様子

≪今後のスケジュール概要≫ **工事名：病院増改修整備工事**

- ① 現場事務所、仮設間仕切工事28年12月中旬～
- ② 仮設工事（売店・食堂用仮設棟建設）29年1月～4月 Step 1
- ③ 売店食堂、宿泊棟解体 29年4月～8月 Step 2
- ④ 増築棟新築工事 29年9月～30年11月 Step 3
- ⑤ 外来棟改修工事（救急外来等）30年12月～31年8月 Step 4

## 二の丸会が開催されました

平成28年11月26日（土）にANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにおいて平成28年度二の丸会が開催されました。

総会は、蟻田 功 二の丸会会長のご挨拶から始まり、新役員の紹介が行われました。また、来年度の新役員を木村喜美生様にお引き受けいただきました。続いて会計報告、東家監事より会計監査報告、最後に河野院長から病院状況報告が行われました。



蟻田功会長のご挨拶

引き続き会場を移して、木村圭志様のご乾杯のご発声により、250名余りでの懇親会が始まりました。懇親会は、スタートから1時間ゆっくりとご歓談いただき、午後8時過ぎから二の丸会恒例の新人紹介を行いました。当日の出席者のうち、前回の二の丸会以降当院で勤務する事になった67名の紹介が行われました。最後に綾部明人様から閉会のご挨拶をいただき、二の丸会を無事終了することができました。

この二の丸会は、旧職員と現職員の親睦を図るための貴重な場となっておりますが、ご出席いただいた多数の先輩方とも和やかに旧知を深めることができ、有意義な時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。

(庶務班長 今村宏次)

## 救急看護エキスパートナース研修が開催されました

2016年11月28日（月）～12月2日（金）の5日間、国立病院機構九州グループ主催の救急看護エキスパートナース研修が開催されました。7回目となる今年は、九州の各施設から14名の受講生が参加し、救急看護に必要な専門的知識と技術を習得するために、シミュレーターを使用したフィジカルアセスメントやメンタルアセスメント、実症例の症例検討会、病棟研修、グループディスカッションを行いました。初日には、意見交換会を行い、食事をしながら各施設での現状や課題を



シミュレーターを用いて学ぶフィジカルアセスメントの基礎



受講生との記念撮影

情報共有しました。受講生同士のネットワークも広がり、救急看護に携わる看護師として共に学ぶ姿がみられ、自己のスキルアップはもちろん、自施設のレベルアップを目指すために、何かを持ち帰りたいという意欲がみられました。

今後、受講生は各施設に戻り具体的に取り組みを実践していきますが、各施設に求められる役割を見極めつつ、救急看護の質向上に取り組んでくれることを期待しています。（教育研修係長 榊原チハル）

## 二の丸がんサロン Xmasコンサートが開催されました

平成28年12月15日（木）に“二の丸がんサロン（患者会）”の企画にてクリスマスコンサートが開催されました。

二の丸がんサロンは、がん経験者の方やご家族が気軽に語り合い分かち合う場であり、がん医療に関する意見交換や情報を得ることによって、がん経験者の方やご家族自身が困難に対処していく力を養う場、また誰かの役に立つ感覚を獲得していく場です。

二の丸がんサロンは、院内のスタッフの皆様方にご協力頂き学習会を開いたり、毎月テーマを決めて、当事者みなさんの語らいを特色としています。

12月は、「二の丸がんサロン」を多くの方に知ってほしい、「患者さん方へ癒しの時間を提供したい」とサロン参加者の方々の声で、前半の1時間を使って演奏ボランティア美齡重（ミレージュ）様によるトーンチャイムコンサートが開かれました。

トーンチャイムはアメリカで作られたリハビリ用の



会場のみなさんとの合唱もありました



トーンチャイム演奏の様子

楽器で優しい音色が奏でられます。美齡重様は15年前から病院や施設などで多岐にわたって演奏活動をされており、二の丸がんサロンで演奏頂くのも5度目となりました。たくさんのクリスマスソングを奏でて頂き、観覧された患者さんからも「すごくきれいな音色ですね、見に来てよかった」とのお声を頂きました。日頃、自分1人では病室から移動できない入院患者さんも、看護師さんの介助もあり、楽しそうに手をたたきながら聞き入っておられました。

二の丸がんサロンのがん種や病期はさまざまですが、それぞれを思いやり助け合われているがんサロンです。毎月第1金曜日13：00～15：00に研修室1で開催されております。自施設のみならず、他施設へ受診している方も参加可能で地域に開かれた交流の場です。参加ご希望の方がおられましたら、詳しくはがん相談支援センターまでお尋ね頂きますよう、お声かけお願い致します。

（がん相談支援センター（二の丸がんサロン事務局）  
医療ソーシャルワーカー 木下 良子）

# 第22回 国立病院機構熊本医療センター医学会プログラム

平成29年 1月14日 (土)

## 開会の辞

河野 文夫 院長

8:50~9:00

## 一般演題Ⅰ 「内科系部門」

辻 隆宏 (総合診療科医長)

城 芳恵 (6南病棟看護師長)

9:00~10:00

### I-1 高齢発症の劇症1型糖尿病に非閉塞性腸間膜虚血を合併した1例

糖尿病・内分泌内科

木下博之 小野恵子 荒木裕貴 橋本章子 西川武志  
高橋 毅

### I-2 発熱、高フェリチン血症を合併した著明な小球性貧血の一例

血液内科

永野美和 河北敏郎 渡辺美穂 山口俊一郎 井上佳子  
榮 達智 原田奈穂子 日高道弘 清川哲志 河野文夫

### I-3 大顆粒リンパ白血病に伴う赤芽球癆の一例

血液内科

児嶋美紀 井上佳子 渡辺美穂 山口俊一郎 河北敏郎  
榮 達智 原田奈穂子 日高道弘

### I-4 被殻出血を機に診断した悪性高血圧の1例

腎臓内科

西山景子 梶原健吾 尾上友朗 西口佳彦 梶原奈央  
富田正郎

### I-5 C型肝硬変に合併した早期胃癌3病変に対するESDにおいてルストロンボパグが有効であった一例

消化器内科

矢野雄久 柚留木秀人 富口 純 中垣貴志 二口俊樹  
松山太一 石井将太郎 浦田昌幸 中田成紀 杉 和洋

### I-6 肝血管奇形を主病変としたオスラー病の1例

内科・循環器科 佐藤医院<sup>1)</sup>

消化器内科<sup>2)</sup>

岡本有紀子<sup>1), 2)</sup> 杉 和洋<sup>2)</sup> 富口 純<sup>2)</sup> 中垣貴志<sup>2)</sup> 二口俊樹<sup>2)</sup>  
柚留木秀人<sup>2)</sup> 松山太一<sup>2)</sup> 石井将太郎<sup>2)</sup> 浦田昌幸<sup>2)</sup>  
中田成紀<sup>2)</sup>

## 一般演題Ⅱ 「精神・救急・その他の診療科部門」

櫻井 聖大 (救急科医長)

10:05~11:15

森山ひろみ (6北病棟・CCU看護師長)

### II-1 冠攣縮が関与した急性心筋梗塞

循環器内科

鶴田結子 片山哲治 山田敏寛 松原純一 松川将三  
宮尾雄治 藤本和輝

## II-2 高ホモシステイン血症を伴った若年性静脈血栓症の1例

神経内科

西 晋輔 原健太郎 平原智雄 田北智裕

## II-3 「平成28年熊本地震」における精神科事案の動向について

精神科

橋本 聡 神野哲平 満崎晃志 山下建昭 渡邊健次郎

## II-4 プレホスピタルにおけるqSOFAの有用性

救命救急・集中治療部

山下幾太郎 江良 正 田中拓道 狩野亘平 山田 周

櫻井聖大 北田真己 原田正公 木村文彦 高橋 毅

## II-5 熊本地震における救急疾患のCT画像診断と経時的推移について

放射線科

猪山あゆみ 根岸孝典 岩下孝弥 伊藤加奈子 浅尾千秋

吉松俊治

## II-6 当院にて発生した液体酸素の安全弁及び放出弁からの持続流出インシデント事例について

麻酔科

竹永真由 瀧賢一郎

## II-7 Sweet病を合併した潰瘍性大腸炎の一例

小児科<sup>1)</sup> 皮膚科<sup>2)</sup>渡邊 優<sup>1)</sup> 緒方美佳<sup>1)</sup> 水上智之<sup>1)</sup> 森永信吾<sup>1)</sup>澤田利恵<sup>2)</sup> 高木一孝<sup>1)</sup>

## 一般演題Ⅲ 「教育・メディカルスタッフ部門」 橋口 清美 (附属看護学校教員)

11:20~12:10

矢ヶ部義則 (放射線科副技師長)

## III-1 看護教育課程における接遇の認識～看護学生が良いと感じた接遇場面を通して～

附属看護学校

岩根知恵 一柳明日香 橋口清美 荒川直子

## III-2 TMRIを用いたFusion T2WI TSEにおけるコントラスト評価とモーションアーチファクト低減効果

診療放射線科<sup>1)</sup>阿萬貴史<sup>1)</sup> 丸山裕稔<sup>2)</sup> 矢ヶ部義則<sup>1)</sup> 古川則行<sup>1)</sup>国立病院機構熊本再春荘病院<sup>2)</sup>

## III-3 当院での末梢血幹細胞採取の現状と課題

救命・救急科 臨床工学技士

佐藤朋哉 田代博崇

## III-4 廃用症候群のリハビリテーション介入におけるADLと歩行能力の推移

リハビリテーション科

藤原崇光 渡邊靖晃 宮川恵輔 吉永龍史

田所広太 林田祐醍 高野雅弘

## III-5 CDトキシン迅速検査キットと培養法の比較検討

臨床検査科

林 秀幸 鍛本 充 川上洋子 永田栄二 武本重毅 高木一孝

## 昼食 (12:10~13:00)

**一般演題Ⅳ「看護・薬剤部門」**

山形 真一（副薬剤部長）

13:00～13:50

田之上美紀（5南病棟看護師長）

**Ⅳ-1 看護師の抗がん剤曝露対策に関する実態と課題**

看護部

矢野真理子 方尾志津

**Ⅳ-2 がん患者に対するがんサポート体制の拡大に向けて**

看護部

大塚美里 安永浩子 方尾志津 矢野真理子

**Ⅳ-3 手術待機中の家族への対応を行った病棟看護師の気づきと困難**

看護部 6東病棟

草野真由美 田寄悠香 嶋本真沙美 大塚美里 福本佐百合

清田喜代美

**Ⅳ-4 臍帯血移植後の患者に対する食事摂取量増加への取り組み**

看護部 6南病棟

河上純萌 平田 舞 城 芳恵

**Ⅳ-5 調剤薬局における処方監査時のりんどう医療ネットワークの活用に関する調査**薬剤部<sup>1)</sup> くまもと西部薬局<sup>2)</sup>大窪典子<sup>1)</sup> 舩田岳史<sup>2)</sup> 小場佐雅浩<sup>2)</sup> 鶴崎泰史<sup>1)</sup>山形真一<sup>1)</sup> 中川義浩<sup>1)</sup>**一般演題Ⅴ「事務系・栄養部門」**

水元 孝郎（外科医長）

13:55～14:45

清水 就人（事務部管理課長）

**Ⅴ-1 ひまわり食選択患者における災害時対応期間の食事摂取状況及び患者背景について**栄養管理室<sup>1)</sup> 消化器内科<sup>2)</sup>山田奈津美<sup>1)</sup> 北向由佳<sup>1)</sup> 松永直子<sup>1)</sup> 中田成紀<sup>2)</sup>**Ⅴ-2 患者サービス向上に向けた取り組み**

事務部医事

窪田真莉絵 小原直樹 甲斐裕樹 吉田健司 川野智史

石井竜男

**Ⅴ-3 地域医療連携室におけるソーシャルワーカー業務の見直し～障害者差別解消推進法の活用～**地域医療連携室医療社会事業専門員<sup>1)</sup> 新開貴夫<sup>1)</sup> 西迫はづき<sup>1)</sup> 木下良子<sup>1)</sup> 坂本陽子<sup>1)</sup>地域医療連携室係長<sup>2)</sup>安藤秀隆<sup>1)</sup> 三浦由江<sup>1)</sup> 立花律子<sup>1)</sup> 田中富美子<sup>2)</sup>**Ⅴ-4 「入院が長期化した患者の事例を通じて、感じたディレンマと権利擁護の持つ、価値の再認識。」**

～救急病院における精神保健福祉士の役割～

地域医療連携室医療社会事業専門員<sup>1)</sup> 安藤秀隆<sup>1)</sup> 西迫はづき<sup>1)</sup> 木下良子<sup>1)</sup> 坂本陽子<sup>1)</sup>地域医療連携室係長<sup>2)</sup>新開貴夫<sup>1)</sup> 三浦由江<sup>1)</sup> 立花律子<sup>1)</sup> 田中富美子<sup>2)</sup>統括診療部長<sup>3)</sup>清川哲志<sup>3)</sup>**Ⅴ-5 医師事務作業補助者による医師の緊急活動検証票業務軽減と消防局への検証票返信迅速化**統括診療部<sup>1)</sup> 救急科<sup>2)</sup>林田しのぶ<sup>1)</sup> 金子 歩<sup>1)</sup> 田口英美<sup>1)</sup> 園田美樹<sup>1)</sup>副院長<sup>3)</sup>原田正公<sup>2)</sup> 高橋 毅<sup>2)</sup> 片渕 茂<sup>3)</sup>



**一般演題VI 「外科系部門」**

松本 孝嗣 先生 (松本外科内科医院院長)

14:50~15:50

清田喜代美 (6東病棟看護師長)

- VI-1 胃カルチノイドと診断され5年経過した後に外科的切除を施行し得た1例  
外科 竹本梨紗 杉原栄孝 宮成信友 上村紀雄 伊東山瑠美 志垣博信  
岩上志朗 水元孝郎 久保田竜生 芳賀克夫 片渕 茂
- VI-2 後腹膜嚢腫と診断され1年経過した後に外科的切除を施行し得た1例  
外科 古本嵩文 水元孝郎 宮成信友 上村紀雄 伊東山瑠美 杉原栄孝  
志垣博信 岩上志朗 久保田竜生 芳賀克夫 片渕 茂
- VI-3 Paine's point - 頭皮上、頭蓋骨上の脳室穿刺ポイント -  
脳神経外科 松崎啓亮 坪田誠之 大塚忠弘
- VI-4 早期より感染症、臓器障害を呈した重症熱傷の一例  
形成外科 加来知恵美 大島秀男 東野哲志
- VI-5 Postpartum spontaneous coronary dissection treated by catheter and surgical intervention  
心臓血管外科<sup>1)</sup> 循環器内科<sup>2)</sup> 田中睦郎<sup>1)</sup> 岡本 実<sup>1)</sup> 宮尾雄治<sup>2)</sup> 藤本和輝<sup>2)</sup>  
病理診断科<sup>3)</sup> 村山寿彦<sup>3)</sup>
- VI-6 Salter-HarrisIV型橈骨遠位骨端線離開の治療経験  
整形外科 酒本高志 平井奉博 福元哲也 中馬東彦 前田 智  
松下任彦 坂本 圭 橋本伸朗

**一般演題VII 「感覚器・その他の診療科部門」**

田渕 博孝 先生 (しまさきバス通り総合内科クリニック院長)

15:55~16:45

西辻美佳子 (7東病棟看護師長)

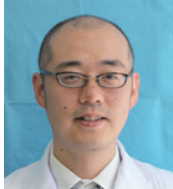
- VII-1 プロリターゼ欠損症の1例  
皮膚科 牧野公治
- VII-2 MTX-LPDを疑った眼内悪性リンパ腫の一例  
眼科<sup>1)</sup> 血液内科<sup>2)</sup> 渡邊隆弘<sup>1)</sup> 宮崎洋子<sup>1)</sup> 筒井順一郎<sup>1)</sup> 近藤晶子<sup>1)</sup> 榮 達智<sup>2)</sup>
- VII-3 当科における周術期口腔機能管理の取り組みと介入効果について  
歯科・歯科口腔外科 近藤きりこ 森久美子 眞鍋佳菜子 古園大気 谷口広祐  
清宮弘康 斉藤美紀 内古閑美友紀 池田貴美子 中島 健
- VII-4 尿管ヘルニアの一考察  
泌尿器科 鮫島智洋 上園英太 銘苅晋吾 二口芳樹 前田喜寛  
陣内良映 土岐直隆 菊川浩明
- VII-5 Pseudo-Meigs症候群を呈した成熟奇形腫の1例  
産婦人科<sup>1)</sup> 病理診断科<sup>2)</sup> 高木みか<sup>1)</sup> 山本 直<sup>1)</sup> 山本文子<sup>1)</sup> 西村 弘<sup>1)</sup>  
三森寛幸<sup>1)</sup> 村山寿彦<sup>2)</sup>

**総評・閉会の辞**

片渕 茂 副院長

16:50

最近のトピックス  
慢性痛診療up to date



麻酔科医長  
小松 修治

患者が医療機関を受診するに至る動機の半数以上は身体の痛みであるといわれており、肩こりや腰痛、手足の関節の痛み、頭痛などが上位を占めています。我々医療者は問診および局所の理学所見に基づいて診断し、治療を計画し、進めていることと思われま。しかし、原因を治せば痛みが改善するはずであるという、従来の生物医学モデルに基づいたアプローチだけでは、思うように痛みが改善しないことも多いのではないのでしょうか。

痛みが慢性化して継続する要因として、痛みが生じる部位の加齢変化などにより、従来の健全な状態にならないという問題だけでなく、末梢の組織や脳・脊髄を含めた神経系の機能変化が大きく影響することが近年の研究からわかってきました。末梢への侵害刺激が持続すると、脊髄細胞は過敏化し、上位中枢でより痛みを感じやすい状態となってしまいます。加えて、ネガティブな感情やストレスなどの心理社会的な要因が脳を含めた神経系の機能変化を引き起こすことも明らかになっています。慢性痛患者における脳の形態学的変化を調べた研究では、不快情動処理に関与する前帯状回 (ACC) や島皮質 (insula)、痛みのコントロールや破局的思考 (痛みについて繰り返し考えること、痛みに対処できないという無力感、痛みの脅威を過大

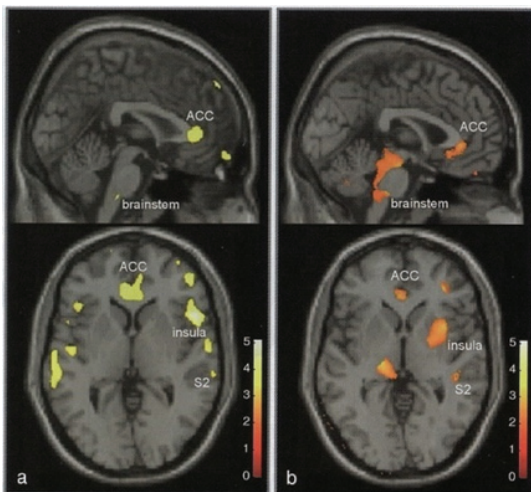


図1 変形性股関節症による慢性疼痛患者の治療前後の灰白質密度の変化  
a: 変形性股関節症による慢性疼痛患者では、健常対照群と比較して、前帯状皮質 (ACC)、右島皮質、S2、脳幹の灰白質密度が減少していた。  
b: 治療が奏効した患者では、これらの灰白質密度の減少が、正常化されることが認められた

に評価することで特徴づけられる考えや情動の傾向で痛みの持続・増強因子とされている) に関与するとされる背外側前頭前野 (DLPFC) などの灰白質体積 (密度) が低下しており、そして、それらは症状の改善とともに正常化することが報告されています (図1、2)。

このような結果を踏まえ、慢性痛の治療は、身体的治療だけでは効果は十分でなく、心理社会的な観点を含めた生物心理社会モデルに基づいた対応が求められるようになってきています。心理社会的治療として、認知行動療法 (cognitive behavioral therapy: CBT)、マインドフルネスストレス低減法などがあり、海外においてはCBTのデータが最も蓄積されており、痛み、否定的な情動、社会機能、破局的思考などへの効果が明らかになっています。認知行動療法とは認知の再構成 (認知の誤りへの気づき方や痛みに関連した非適応的な思考をより適応的で積極的な思考に変える方法を教えること) やリラクゼーション・トレーニング、回避行動を減らして健康的でより活動的な生活の仕方を再導入するために段階的な宿題を出すことなどを行う治療です。実際に、CBT実施前後の局所脳形態変化を比較した研究では前頭皮質および後頭頂皮質で灰白質密度が増加しており、CBTが慢性痛の治療に有用であることが示唆されています (図3)。(図はすべてペインクリニックVol.37.No.6から引用改変)

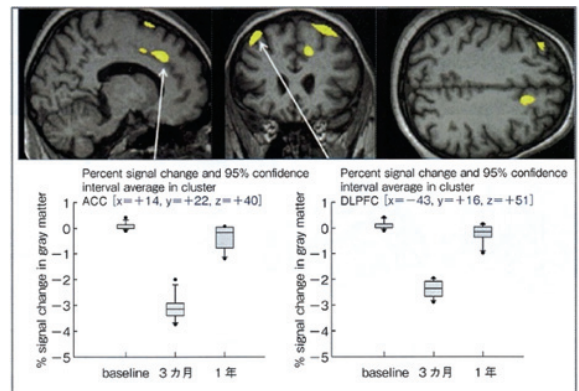


図2 外傷性頭部症候群による慢性頭痛患者の治療前後の灰白質密度の変化

外傷性頭部症候群による慢性頭痛患者では、3ヵ月後の時点で、健常対照群、ベースライン測定時と比較して、前帯状皮質 (ACC) と背外側前頭前野 (DLPFC) の灰白質密度が低下していたが、12ヵ月後に痛みが消失した慢性頭痛患者では、これらの領域の灰白質密度は正常化していた

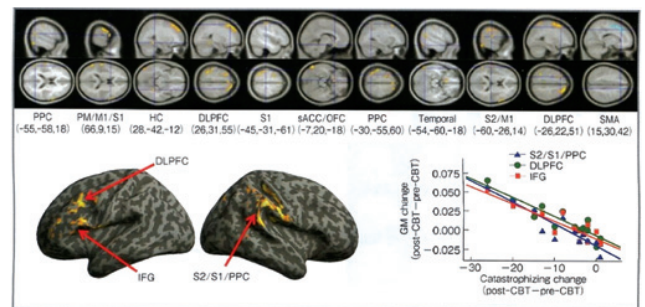


図3 慢性疼痛患者の認知行動療法治療前後の灰白質体積の変化  
a: 慢性疼痛患者に対する認知行動療法 (CBT) 治療後には、左右の前頭皮質背外側部 (DLPFC)、後頭頂皮質、膝下帯状皮質、眼窩前頭皮質、感覚運動皮質、海馬での灰白質密度が増加し、補償運動野で灰白質密度が低下していた。  
b: 破局化思考 (pain catastrophizing) の減少と DLPFC、後頭葉 (PPC)、下前頭回 (IFG)、S1、S2 (1次、2次体性感覚野) の灰白質密度は逆相関していた

## 九州グループ院内感染対策研修会が行われました

平成28年度の九州グループ院内感染対策研修会が11月16日から18日にかけて開催され、北海道から沖縄まで全国から71名の参加がありました。参加者は感染症診療・感染管理で著名な講師陣による密度の濃い講義に熱心に耳を傾けていました。

海外では本邦に比べてCRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）や耐性アシネトバクターなどの高度耐性菌の報告が多い状況です。我が国も昨年、抗菌薬適正使用のアクションプランが策定され、世界の国々と並び耐性菌対策が推進されています。

熊本地震の経験から今回はとくに災害時の感染防止対策として、熊本市市民病院感染管理認定看護師の丸山さんから被災地域での活動を交えた取り組みが報告されました。

16日夜の意見交換会には、多くの参加者が出席し、



研修会の様子

院長・副院長はじめ病院幹部や職員と顔を合わせ、郷土料理を囲んで賑やかに話が弾みました。

最後に、本院からも多くの先生方に座長を引き受けていただき大変お世話になりました。この場をかりて深謝致します。（感染制御室長 高木一孝）

## ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて

今年も12月5日～9日の1週間、米国南カリフォルニア大学病院副院長ヘーゲン教授を当院にお迎えし、北米型レジデント研修が行われました！



ヘーゲン先生と記念撮影

研修医全員のoral発表、病棟回診を熱心にご指導してくださりました。夜は奥様も一緒に飲み会を行い1週間英語に触れ続けることのできる素晴らしい経験ができました。私自身、去年大変苦労しながらも症例報告した結果今年国際外科学会でも発表することができました。そうした意味でもこの研修は私たち研修医にとって非常に有意義だと心底思います。来年、また今の1年目が国際学会で発表し、今度入ってくる後輩たちを引っ張っていってくれたらと思います。

この研修を開催するにあたり時間を割いてくださった多くの先生方・スタッフの方々には大変感謝しております。来年以降も今年以上に盛り上がることを期待しています。（2年次研修医 木下翔太郎）

## 研修医レポート

臨床研修医

おおつか やすひろ  
大塚 康弘



初期臨床研修医1年目の大塚康弘と申します。私は小学校まで熊本にいましたが、その後中・高・大学と県外に出ておりました。そのため久しぶりの熊本での生活を、熊本医療センターの研修医として送ることができ、日頃から嬉しく感じています。

4月に糖尿病内分泌内科から研修をスタートしましたが、その直後に熊本地震に被災し、しばらくの間救急外来で研修させて頂きました。今以上に何も分かっていなかった当時は、2年目の研修医の先生方の懸命に救急外来で働かれる姿を連日拝見し、果たして1年

で自分はここまでのレベルに辿り着けるのだろうかと思っていると同時に強い不安感に駆られていたのを覚えています。

その後地震による救外での研修は終了し再び糖尿病内分泌内科で研修をさせて頂きました。診断やそれまでのプロセス、治療については勿論のこと、電子カルテの使い方から薬剤のオーダーの仕方、サマリ・紹介状の書き方まで基礎中の基礎を一つ一つ丁寧に教えて頂きました。その際言葉や文面の使い方についても丁寧に教えて頂き、他科をローテートしている現在においてもその知識が非常に役に立っております。

現在は呼吸器内科にて研修させて頂いております。様々な呼吸器感染症、間質性肺炎、肺癌など多岐にわたる疾患が扱われています。治療にどの抗菌薬を使うのか、ステロイドの使用量はどれほどかなど、それらをただ先生方の注射・処方カレンダーを拝見するだけでなく、将来自分が処方する立場になることを忘れずに自分で考えていく必要性を感じ、またその機会を逐一頂いております。

今後も素晴らしい先生方の下で勉強させていただくことに感謝をしながら勉学に励みたいと考えております。

## 研修医レポート

### 臨床研修医

やまぐち こうせい  
山口 晃世



こんにちは、研修医1年目の山口晃世と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月から国立病院機構熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修が始まって既に8か月が経過しましたが、まだまだ未熟な部分も多く、周りの方々から教わることばかりです。いち早く力になれるよう日々精進しております。

私は救命救急部から研修がスタートいたしました。まだ仕事に慣れない初めの時期に、救急医療という一刻を争う場面も多い仕事に携わることとなり戸惑いもありました。しかし、指導医の先生方をはじめ、周りのスタッフの方々や研修医の先輩からのご指導のお陰

で、一つ一つ出来ることが増えていき、仕事をするのが楽しくなっていったことを覚えています。

そんな矢先に熊本震災を体験しました。教えてもらう立場が一転し、いきなり戦力として現場に投入され、不安で一杯でした。ですが、研修医と言えど一人の医師である以上、多くの助けが必要とされている状況で泣き言は言ってもらえません。自分に出来る範囲でやれることをやろうと心を奮い立たせ、目の前のことに尽力しました。そうしていると、気付かぬ内に不安が薄らいでおり、やれることも増えていきました。震災モードでの診療が終わり、通常診療となった救命救急部で再び働き始めた時には、震災前の戸惑いはほとんどありませんでした。震災は辛い経験ではありましたが、その一方で、そんな中で医療と向き合ったからこそその成長が出来たのではないかと思います。

次は麻酔科での研修です。これまで研修してきた科とは内容が大きく異なり、また新たに覚えるべきことがたくさん出てきますが、初心を忘れずに努力を重ね、充実した研修生活にしたいと思います。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 臨床研修医

やまむら りひと  
山村 理仁



こんにちは。研修医1年目の山村理仁と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。ふと振り返ると研修をスタートして既に8ヶ月たっております。充実した日々を送っていたおかげか、あっという間の8ヶ月でした。未だにわからないことに多くぶつかりますが、少しは成長できているかと思えます。

私は4月に救急外来から研修が始まりましたが、配属されて3日目に熊本地震が起きました。今思い返しても重大な経験だったと思います。医療の実践を全く知らない状態だったので、まずはできることから始めました。エレベーターが使えないため階段で人工呼吸器を同期と一緒に何度も運び上げたのは、最初の医療行為としてよく覚えています。そこから徐々に診察

や採血の手技や蘇生法などを教わり、できることが少しずつ増えていきました。地震の影響で救外を受診する患者さんが非常に増えたため、とても多くの症例を学ばせていただきました。

その後のローテーションは血液内科、消化器内科、外科と特色のある充実した科で研修させていただきました。化学療法、骨髄移植、腹部エコー、内視鏡治療、そして手術と多くの現場をみることができました。2ヶ月ずつの研修期間で、多くの患者さんと出会い、様々な症例を学ばせてもらいました。2ヶ月同じ科を回っていると少しずつわかることが増えて面白くなってきますが、ちょうどその頃には次の診療科へ移らねばならず、毎回名残惜しいような思いをしていました。幸い2年目は自由に診療科を選んで勉強できるので、足りないところはそこでまた学ぼうと思います。

20名以上の同期と多くの2年目の先生方、熱心な指導医の先生方に恵まれて充実した研修を送らせていただいております。まだまだ未熟ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

# 研修のご案内

## 第215回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年1月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。  
 「第1症例 腎臓内科の症例」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎  
 「第2症例 小児と二人暮らしの患者さんの終末期について」  
 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 磯部博隆
2. ミニレクチャー「ESUS:原因不明の脳梗塞症について」  
 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 平原智雄

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第184回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成29年1月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 糖尿病と癌の関連について 国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科 樋口賢太郎
2. 高齢者に優しい糖尿病治療を求めて 熊本大学大学院生命科学研究所 代謝内科学 講師 近藤 龍也 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501(代表) 内線5441

## 第68回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2単位認定〕

日時▶平成29年1月21日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：豊田消化器外科医院院長

豊田徳明 先生

演題：「がんの集学的治療最前線」

1. 新世代のがん分子標的治療の現状と課題  
 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 榮 達智
2. がんの在宅医療の現状と未来  
 ひまわり在宅クリニック 院長 後藤慶次 先生
3. がん診療における医科歯科医療連携の動向  
 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健
4. 固形がんに対する化学療法の最新情報  
 熊本大学医学部附属病院外来化学療法センター長 陶山浩一 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

## 第125回 総合症例検討会（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年1月25日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『慢性腎不全の憎悪と呼吸困難』

(90歳 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田正郎

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山寿彦

「慢性腎不全にて近医に入院中であったが、無尿となり呼吸状態が悪化して緊急に入院となった。」

※臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

# 2017年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室
1日(日)		
2日(月)		
3日(火)		
4日(水)		
5日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「不明熱」 国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長 辻 隆宏	
6日(金)		
7日(土)		
8日(日)		
9日(月)		
10日(火)		
11日(水)	18:00~19:30 第102回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
12日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「敗血症の治療」 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 櫻井聖大	
13日(金)		
14日(土)		
15日(日)		
16日(月)		19:00~20:30 第215回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
17日(火)	19:30~21:00 摂食嚥下特別講演会 「食事のポジショニングについて」 日本赤十字看護広島大学特任教授 迫田綾子 先生	
18日(水)		
19日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「緩和ケアについて」 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 磯部博隆 14:00~15:00 第46回 市民公開講座 「脂質異常症について」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川武志	19:00~20:45 第184回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
20日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がんについて」
21日(土)	15:00~17:30 第68回 症状・疾患別シリーズ 「がんの集学的治療最前線」 [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 座長 豊田消化器外科医院院長 豊田徳明 先生 1. 新世代のがん分子標的治療の現状と課題 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 榮 達智 2. がんの在宅医療の現状と未来 ひまわり在宅クリニック院長 後藤慶次 先生 3. がん診療における医科歯科医療連携の動向 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 4. 固形がんに対する化学療法の最新情報 熊本大学医学部附属病院外来化学療法センター長 陶山浩一 先生	
22日(日)		
23日(月)		
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
25日(水)	19:00~20:30 第125回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「慢性腎不全の増悪と呼吸困難」	
26日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「緊急放射線治療」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高悦司 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 <細胞診月例会・症例検討会>	
27日(金)		
28日(土)	14:00~16:00 第275回 熊本県滅菌消毒法講座 「微生物の感染経路と消毒 ~結核からMRSAまで~」	
29日(日)		
30日(月)		
31日(火)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)